

魅力ある十日町市立中学校づくり方針(たたき台)への
「十日町”みんなの学校”プロジェクト」グループワーク・児童生徒アンケート意見の反映

資料3

●については、現在の制度では実現不可であり、今後制度改変等があれば検討は可能

1	十日町市が目指す教育の姿
(1)	グループワーク テーマ:育てたい子どもの姿(生徒の育成像)
分類	内容
大分類 (方針案)	<p>(1)育てたい子どもの姿(生徒の育成像) 十日町市が目指す子どもの姿は、一人ひとりの自己有用感や自己肯定感を育み、自分のよさや可能性を認識しながら主体的に成長しようとする生徒です。あわせて、集団の中で多様な考えに触れ、互いを認め合い、協力し合いながら、思考力・判断力・表現力や問題解決能力を高め、コミュニケーション能力やリーダーシップ、責任感を備え、主体的・協働的に行動できる生徒を育てます。 また、これからの社会を生きる基盤となる確かな学力を身に付けるとともに、探究的な学びを通して、社会で活用できる知識や技能、規範意識を培い、社会の一員としてよりよく生きようとする態度を育てます。 こうした子どもの姿の実現に向け、家庭・学校・地域が連携し、次代を担う子どもの育成に取り組めます。</p>
中分類	<p>① 自己肯定感・自己有用感 子どもたちには、自己肯定感を高め、自己の価値を認識する力を養うことが大切であるとの意見が多くあります。自分の良いところを認められる環境を提供し、自己有用感を感じることができる教育が求められています。</p>
小分類	<p>1(1)①a 子どもたちには、自己肯定感を高め、自己の価値を認識する力を培ってほしい。</p>
	<p>37 個性を大切にする 48 個性・良さを伸ばす 154 自己肯定感・自己有用感を持てる 160 自分に価値がある、認められている、役に立っている 162 自己有用感・自己肯定感 155 自己肯定感が高い 156 自分が好き！私のものでいい 157 自分を大切にできる 158 自信を持てる 159 自己有用感が高い</p>

小分類	1(1)①b スポーツ・運動を通じた学び
	167 健康的な体づくりや活発に動く 168 運動、体を動かす 169 スポーツや対人競技を楽しむ 170 運動が好き
中分類	② コミュニケーション能力 保護者や地域住民からは、子どもたちが自己表現力を高め、他者と円滑なコミュニケーションを取る能力を育成することが強調されています。特に、多様な考えを受け入れる姿勢や集団生活における社会性を重視する意見が多く、人間関係を築く力や感謝の気持ちを大切にせる教育も求められています。協力し合いながら問題を解決する力や挨拶を大切にせる心も、円滑な社会生活を送るために不可欠とされています。
小分類	1(1)②a 自己表現力を高め、他者と円滑なコミュニケーションが取れる能力を有する子ども。
	1 ちゃんと話合いができる能力を持つ 2 自己表現力の向上 4 社会性の育成 5 コミュニケーション能力・社会性がある 7 気持ちの言語化と表現 8 人間関係をつくる力 10 礼儀正しい 13 コミュニケーション能力 16 英語コミュニケーション能力 17 コミュニケーション作る 22 人と対話・コミュニケーションができる 23 自分の意見・考え・思いを伝えることができる 27 コミュニケーション力 28 他者とのコミュニケーション 29 他者との関係性を深める 33 目配り気配り 34 自分の思いや考えを表現できる 35 困っていることを他者に伝えられる 49 笑顔 116 自分の意思をちゃんと言える

小分類	1(1)②b より良い人間関係を築くため、挨拶を大切に、感謝の気持ちが持てる子ども
	11 周囲の人や物など色々なことにきちんと感謝できる 12 あいさつができる 14 元気であいさつ・返事ができる 18 明るいあいさつができる 19 命や人を大切にす豊かな心を持つ
児童生徒アンケートより(設問1、2、4、10) 児童生徒にとって学校生活の充実には、友人関係を広げたり深めたりすることなど、人との関わりが重要な要素の一つであることが確認された。学年が上がるにつれて友人関係の重要度が高まる一方、友人関係に起因する悩みや不安も一定数見られることから、安心して過ごせる親和性の高い学校環境の整備が必要であると考えられる。 なりたい人物像としては、「リーダーシップがある人」、「人の役に立てる人」の割合が高くなっている。児童生徒が社会と関わる機会が多くなることに伴い、人との関係性を重視しているものと考えられることから、コミュニケーション能力等の社会性を培う教育を推進していくことが求められる。	
中分類	③ 多様性への理解・思いやり 子どもたちには、他者の立場を理解し、異なる意見や個性を認め合う能力を身につけさせることが重要だという意見が多くあります。思いやりや柔軟な心を育み、多様性を尊重する態度を養うことが求められています。特に、自分と他者の違いを理解し、共に成長できる環境を築くことが強調されています。
小分類	1(1)③a 多様な考えを受け入れ、協力し合いながら集団生活における社会性を育み共に成長できる環境を築くことが強調されている。。
	3 多様な考えを受けとめられる 6 集団生活ができる 9 生身の人間関係を築ける 15 素直 20 友だちを作り、大切にす 21 素直で朗らか 24 仲間と協力 26 ユーモアがある 30 と共に協力し合える 31 チームの中の役割を果たす 32 親切 36 自分のことはもちろん友だちのことや気持ちを考えようとする 38 相手のことを考える 39 互いの良さや多様性を認め合う 40 人の良さを感じ取れる 41 個性を認め合う 42 自分を知る、相手を知る 43 自分の感じていることをなぜそう感じるのか対話できる 45 違い・多様性を認め合える

- 46 相手の立場になって考える
- 47 相手の立場を想像して行動できる
- 50 思いやりがある
- 51 他者の存在を認める
- 52 平等性を持っていける
- 53 友だちを大切にする
- 54 人間関係を育める
- 55 自分とは違う考えも認められる
- 56 変化への許容、柔軟性
- 57 自他を大切にできる
- 58 差別をしない
- 59 周囲の意見を聞ける柔軟性がある
- 60 柔軟な心・頭
- 61 適応力がある
- 62 人の気持ちが理解できる
- 93 困ったことは人に相談することができる
- 94 柔軟な考えができる
- 100 友人を作る
- 101 競争心を作る
- 105 ルールを守ることができる
- 161 自分らしさを認め合える

中分類

④ 主体性・自主性

子どもたちには、自分で考え、行動する力を育てることが強調されました。主体的に学ぶ姿勢や自立心を養うことが、個々の成長に欠かせない要素とされています。特に、自分の意志を持ち、物事を決める力や、チームとして協力しながら課題に取り組む姿勢が求められています。

小分類

1(1)④a

自分で考え、行動するなど主体的に学ぶ姿勢や自立心を養うことが、個々の成長に欠かせない要素である。

- 65 積極的に学びに取り組む
- 95 考える力がある
- 106 賢い
- 111 主体的に学ぶ
- 112 主体的に考えるチカラがある
- 113 自分自身で考えて行動できる
- 114 主体性がある
- 115 自律性がある
- 117 自分軸、自分を信じる力を持てる
- 118 自分軸で情報の取捨選択ができる
- 119 自立がしやすい
- 120 自立する
- 122 自分で決める力
- 123 自分で考えて行動できる

- 126 自ら進んで
- 127 知的好奇心が豊か
- 128 物事を決めることができる
- 129 判断力・決定力がある
- 165 本を読む
- 171 SNSに頼りすぎない
- 172 先生の個性が生きる
- 173 安心感がベースにある

小
分
類

1(1)④b

自分の意志を持ち、物事を決める力や、チームとして協力しながら課題に取り組む姿勢が重要である。

- 25 自分たちで問題解決ができる
- 121 自身とチームへのリーダーシップを持てる
- 124 主体的かつ協働的に課題追求できる
- 125 主体的・協働的に行動できる力を身に付ける

児童生徒アンケートより(設問6)

中学生においては、「グループで対話しながら学習する環境」を求める割合が高く、友だち関係を深める中で対話的な学習スタイルを行うことで、自分たちで考え出す力が培えるものと考えられます。

中
分
類

⑤ 基礎学力

読み書きや計算の基本的な力をしっかりと身につけることが基盤として必要です。学力向上とともに、深い理解力を養い、問題解決能力を高めるための学びが求められています。

小
分
類

1(1)⑤a

基礎学力向上とともに、深い理解力を養い、問題解決能力を高めるための学びが求められている。

- 163 読み・書き・そろばんができる(英語やプログラミングはその次)
- 164 学力
- 166 深掘りや問題解決できる基礎学力

児童生徒アンケートより(設問5、7)

中学生においては、「一斉学習指導」による学習体制を求める意見が一定数を占めていることから、学力向上に向けて、専門的な教員による指導体制の確保が重要であると考えられる。現在の学習指導要領において進められる「探究的な学び」、「対話的な学び」も一定割合のニーズがあることから、学習指導に係る専門的な知識と学び方の工夫が求められる。また、学習でわからないことや困ったとき悩んだときにすぐに相談できる環境を求める割合が高くなっている。経験豊かな複数教員によるサポート体制の充実が重要である。

中分類	⑥ 生きる力・生き抜く力 未来に向けて柔軟で強い心を持ち、問題解決力や創造力を発揮できる力を養うことが必要だとの意見が集まりました。AIやプログラミング、生活スキルを学び、実社会で通用する知識を身につけることが大切であり、自己コントロールや非認知能力も重視する考え方が示されています。
小分類	1(1)⑥a 未来に向けて柔軟で強い心を持ち、問題解決力や創造力を発揮できる力を養ってほしい。
	88 創造性・表現力・応用力 89 生きる力を持てる 90 予測不能な未来を生きぬく力がある 91 これからの時代をたくましく生きる 92 問題解決する力 96 想像力・表現力が豊か 99 生きる力がある 102 体力的・精神的に強い 103 現実世界で生きる
小分類	1(1)⑥b AIやプログラミング、生活スキルを学び、実社会で通用する知識を身につけることが大切
	97 生活に必要なスキルを持つ 98 AI、プログラミング、暮らしなどそれぞれの知識やスキルを持てる 104 地に足がついている
小分類	1(1)⑥c 自己コントロールや非認知能力を重視
	107 非認知能力 108 自己コントロール 109 人間的魅力 110 何事も進んで元気に取り組む

中 分 類	⑦ 地域愛・郷土愛 地域の良さや文化、自然や四季を大切にすることを育むことが求められています。地域社会の一員として、十日町市の歴史や文化を学び、地域への愛着を持つことが子どもたちの成長に寄与するとされています。
小 分 類	1(1)⑦a 十日町市の自然や歴史・文化を学び、地域への愛着を持つことが子どもたちの成長に寄与する。
	144 十日町を十分に理解する 146 十日町の良さを市外県外の人に伝えられる 147 生まれ育った地域の良さを表現できる 148 自分や十日町の未来を切り開いていこうとする 149 ふるさと十日町市を大切に考えることのできる 150 自分の育つ地域の良さを知る、話せる 151 地域を大切にし、十日町を好きでいられる 152 自然や四季を感じながら過ごす 153 地域愛
児童生徒アンケートより(設問9) どの学年においても、「地域の方とともに楽しむイベントや企画を行うこと」の割合が高くなっている。また、地域の職業の様子や働く意義について学ぶことも重要視されており、コミュニティ・スクールや地域協働活動等により、地域文化の継承活動や活性化活動を行えるよう、学校と地域との深い関係の構築が重要である。	
中 分 類	⑧ チャレンジ精神・あきらめない心 失敗を恐れず挑戦する姿勢や、やり抜く力が重要視されています。子どもたちには、好奇心を持って新しいことに挑戦し、途中で諦めずに努力し続ける心を育てることが期待されています。失敗を次のステップとして捉え、挑戦することを楽しむ姿勢が求められています。
小 分 類	1(1)⑧a 好奇心を持って失敗を恐れず新しいことに挑戦する姿勢や、途中で諦めずに努力し続ける心を持ってほしい。
	44 個人の発想力・独創力を持つ 63 苦手なことにもチャレンジしようとする 64 苦手分野や深く学びたいことを実現する 66 失敗を恐れない 67 失敗を恐れず挑戦できる 68 やり抜く力を育てたい 69 好奇心と想像力がある 70 好きなことがたくさんある 71 興味のあることを深掘りできる 72 何事もあきらめない 73 途中であきらめない 74 自分がやりたいことを経験値にできる 75 やりたいと思ったことにチャレンジする勇気を持っている

- 76 失敗を次へのステップと捉えることができる
- 77 失敗を糧にして一歩踏み出す力
- 78 新しいことに挑戦
- 79 諦めない気持ちを持つ
- 80 折れない心、しなやかな心
- 81 何事にも挑戦する
- 82 あきらめない
- 83 あきらめずやり抜く
- 84 努力できる
- 85 集中できる
- 86 情熱・やる気

中分類

⑨ 将来・夢・目標

自分の未来に対して前向きな考えを持ち、目標に向かって頑張る力を育てることが重要であるとの意見が多くあります。将来の夢や目標に向かって努力する姿勢を育むために、子どもたちには日々の学びを通じて、自分の成長を実感できるような機会を提供することが求められています。

小分類

1(1)⑨a

自分の未来に対して前向きな考えを持ち、目標に向かって努力する姿勢を身につけてほしい。

- 130 自分の夢・将来を笑顔で語る
- 131 将来自信をもって社会に出て行ける
- 132 目を輝かせて自分の将来を考えられる
- 133 自分の幸せを考えられる
- 136 夢を持つ
- 137 未来を想像できる
- 138 勉強やスポーツ含め目標を持った生活
- 139 将来像を持てればもっと良い
- 140 夢中になれる
- 141 目標に向かって頑張れる
- 142 志を持って日々過ごす

小分類

1(1)⑨b

子どもたちには日々の学びを通じて、自分の成長を実感できるような機会を提供することが重要である。

- 87 好きなことを見つけられる
- 134 学ぶことをやめない
- 135 勉強することがきらいでない
- 143 大きな視野を持てる
- 145 地域を愛し自然を大切にす
- 302 全教育活動を通して豊かな心を育てる
- 320 愛

魅力ある十日町市立中学校づくり方針(たたき台)への
「十日町”みんなの学校”プロジェクト」グループワーク・児童生徒アンケート意見の反映

●については、現在の制度では実現不可であり、今後制度改変等があれば検討は可能

1	十日町市が目指す教育の姿
(2)	グループワーク テーマ:新しい学校で大切にしたい教育
分類	内容
大分類 (方針案)	<p>(2)学校で大切にしたい教育 十日町市が新しい学校において大切にしたい教育は、子ども一人ひとりが安心して自分らしく学び、仲間や地域と関わりながら、主体的に未来を切り拓いていく力を育む学校教育の実現です。その基盤として、互いを認め合い、安心して相談できる関係性のもとで、みんなが協力しながら物事を成し遂げることのできる、明るく温かな学校づくりを進めます。</p> <p>このため、本市がこれまで推進してきた「居心地のよい学級づくり」を一層発展させ、教職員と児童生徒との信頼関係を基盤とした親和性の高い学校運営を推進します。これにより、不登校の未然防止やいじめの早期認知・組織的対応を図るとともに、自己肯定感・自己有用感の育成につなげます。あわせて、対話的・協働的な学習活動を通じてコミュニケーション能力や社会性を育み、多様性を尊重するインクルーシブな教育環境のもとで、一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別最適な学びを充実させます。</p> <p>さらに、基礎・基本の確実な定着を図る専門性の高い教科指導を土台としつつ、探究的な学びや体験活動、ICTの効果的な活用によって学びの多様化を進め、主体性や探究心、課題解決能力の育成を図ります。加えて、地域資源や人材を生かした学習やキャリア教育を推進し、ふるさとへの愛着を深めるとともに、社会の一員として自らの生き方を主体的に考える力を育みます。</p> <p>これらの教育活動を支えるため、教職員の専門性を生かした指導・支援体制の充実を図るとともに、誰もが相談しやすく学び合いが促進される学校環境や施設整備を進め、地域とともにある魅力ある学校づくりを通して、児童生徒が「学校は楽しい」と実感できる持続可能な教育の実現を目指します。</p>
中分類	<p>① 安心・信頼を基盤とした学校づくり 生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整備するため「居心地のよい学級づくり」を発展的に進めます。教職員と生徒との良好な信頼関係を築き、不登校・いじめや学校生活に係る悩み・相談ごとについて、学校組織として適切に対応し、生徒の自己肯定感・自己有用感の育成を図ります。</p>
小分類	<p>1(2)①a 安心・信頼・居場所(安全・安心な学校づくり)</p>
	<p>180 先生が生徒と深い会話ができ、信頼関係をつくる 277 安全安心に過ごせる 294 不登校、障がい児、ボーダー、すべての子どもたちの居場所になれる</p>

- 295 リモート学習など不登校生徒への対応
- 296 不登校の子への対応
- 297 kivaプログラム
- 298 いじめ・不登校の解消
- 299 不登校等の対応
- 300 不登校、いじめ、思春期などの心のケア
- 301 自己肯定感を高める
- 302 全教育活動を通して豊かな心を育てる
- 303 自分の良いところを見つけ認められる
- 304 自己有用感・自己肯定感を育む
- 305 心を強く

児童生徒アンケートより(設問1, 7, 10)

児童生徒が学校が「楽しい」理由としては、「友達・みんなとの関わり」の割合が学年が上がるにしたがって高くなっています。友人関係など親和性のある学校づくりを進めることが「楽しい学校」づくりに資すると考えられます。また、児童生徒が「理想とする学校」として、「みんなが仲の良い学校」が求められています。みんなが相談したり協力したりして物事を成し遂げること、楽しい学校生活を送ることができることにつながると考えられます。

また、明るい雰囲気作りや何かあったら相談できる体制も求められていることから、学習や生活面など専門的で広く支援できる体制の確立が重要となっています。

中 分 類	<p>② コミュニケーション力・社会性・協働性を育む教育</p> <p>自らの考えを適切に表現するとともに、対話的な学習活動を通して多様な価値観に触れ、思考力・判断力・表現力の向上を目指します。集団での学習や活動を通じて他者を尊重し、協力しながら課題に取り組む態度を育成します。</p>
小 分 類	<p>1(2)②a</p> <p>人間関係・社会性・協働性</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 175 子どもたちのよい関わり合い 177 社会性を育む 178 人間関係づくり 179 人間関係 186 協力できる 187 寄り合う・話し合う 189 人を思いやる 191 集団の中で一つのゴールに向かって取り組む 238 互いを認め合い、共に成長できる 242 他人を理解できる 243 人間関係を育む 250 自他を大切にする 254 認め合う 318 道徳 320 愛

小分類	1(2)②b コミュニケーション・対話・言語力
174 言葉を選んだ言語力 176 自分の意見を言語化できるようになる 188 コミュニケーションを上手に取れるようにする 192 社会性やコミュニケーション能力の向上 193 コミュニケーションスキルを伸ばす 194 コミュニケーション能力 196 傾聴力 198 哲学・対話 241 色々な意見を大切にす	
児童生徒アンケートより(設問1、2、4、10) 児童生徒にとって学校生活の充実には、友人関係を広げたり深めたりすることなど、人との関わりが重要な要素の一つであることが確認された。学年が上がるにつれて友人関係の重要度が高まる一方、友人関係に起因する悩みや不安も一定数見られることから、安心して過ごせる親和性の高い学校環境の整備が必要であると考えられる。 なりたい人物像としては、「リーダーシップがある人」、「人の役に立てる人」の割合が高くなっている。児童生徒が社会と関わる機会が多くなることに伴い、人との関係性を重視しているものと考えられることから、コミュニケーション能力等の社会性を培う教育を推進していくことが求められる。	
中分類	③ 一人ひとりを大切にする個別最適な学びと多様性の尊重 生徒の能力や特性、学習の進捗等に応じた指導を行い、個別最適な学びの充実を図ります。特別な支援を必要とする児童生徒を含め、多様性を尊重したインクルーシブな教育環境の整備を進めます。
小分類	1(2)③a 個別最適な学び・多様性・インクルーシブ教育
219 一人ひとりの思いを大切にす 220 個々の能力や性格に応じた個別教育 221 個々の能力や特性を伸ばす「個人型」への転換 222 均質な人材を大量育成する「集団型」からの脱却 223 苦手・得意をしっかり受けとめる 224 一人ひとりの良いところを伸ばしていく 225 目標の達成ができる 226 個性の芽を育てられる 228 個々に合った学びの選択 229 一人ひとりに合った学びの支援 230 生徒一人ひとりの学習度合い、能力に応じた指導が受けられる 234 みんなと一緒に求めない 240 「特別な支援」の充実 246 個人個人を認める 247 一人ひとりを大切にす 248 多様性を学べる 249 その子らしい表現方法(アウトプットとインプット)	

- 252 包摂インクルーシブ
- 253 多様性、世界の広さ
- 263 個々の学力に応じたきめ細かい教育

小分類	1(2)③b 心と体・運動・文化活動
	<ul style="list-style-type: none"> 244 性教育 306 自分で進んで運動したいと思える 307 運動・体力・健康 308 新しい文武両道 309 動ける体、基礎体力作り 310 自分の心と体の仕組みを知る
中分類	④ 主体性・探究心・挑戦を育てる学び 生徒の興味・関心を生かした探究的な学習を推進します。また、体験活動や課題解決型学習を通して、主体性及び課題対応能力の育成を図ります。
小分類	1(2)④a 主体性・探究・挑戦(アクティブラーニング)
	<ul style="list-style-type: none"> 227 対話を進めながら知識や感性を深化し、その子の自己実現につなげてあげられる(アクティブラーニング) 231 興味に合わせた活動の機会がある 232 好きなこと、興味のあることを主体的に学べる 233 社会(世の中)に主体的に関わる 235 興味を見つける、見つけられる 236 好きを見つける体験・経験の場 237 得意や好きを伸ばす 245 制服がない 258 探求的な学び 262 課題追求的 268 生徒が先生となって授業等を行う工夫がある 270 学校生活のルールを自分で考え、決める環境 315 失敗や挫折を味わえる 316 チャレンジを徹底的に応援し踏み出す 317 やりたいを応援する地域、先生、仲間

中分類	⑤ 確かな学力と基礎・基本の定着 学習指導要領に基づき、基礎・基本を重視した教科指導を行います。理解の定着を図るとともに、学習状況に応じた指導により、学力の向上を目指します。
小分類	1(2)⑤a 学力・基礎学力・教科教育
	185 正しい情報を判断できる 259 専門学科の学力の向上 260 他県や他市に出たときの学力の差がないように 261 他者に教えられる知識と力 264 学力向上 265 世界で通用する知識 266 学力を伸ばしたい生徒への対応 267 科学教育・教科教育 287 基礎学力の向上 288 理解力の向上 289 一般常識が身につく 290 読み・書き・そろばんができる(英語やプログラミングはその次) 292 基礎学力の定着 293 最先端だけでなく「基礎・基本」の学習
児童生徒アンケートより(設問4. 5) 学校でやりたいこととして、どの学年においても「学力を伸ばすこと」が、3割以上を占めており、学ぶ意欲を高める充実した学習環境を整備することで学力の向上につなげられると考えます。中学生においては、「一斉学習指導」による学習体制を求める意見が一定数を占めていることから、専門的な教員による指導体制の確保が重要であると考えられます。 また、現在の学習指導要領において進められる「探究的な学び」、「対話的な学び」も一定割合のニーズがあることから、学習指導に係る専門的な知識と学び方の工夫が求められます。	
中分類	⑥ ICT・先端技術を活用した学びの多様化 GIGAスクール構想を踏まえ、ICTを活用した効果的な学習環境を整備します。また、対面とオンラインを組み合わせた学習により、学びの個別化及び多様化を推進する。
小分類	1(2)⑥a ICT・先端技術・学びの多様化
	255 わからないをそのままにしない 256 GIGAスクールの徹底 271 テストなし通知表なし 272 リモート 273 リアルとオンラインそれぞれの良さを体感できる 281 AIやプログラミングなどを暮らしや将来の仕事に活かせる

中分類	<p>⑦ 地域・ふるさととつながる学び 地域資源を活用した学習を通じて、郷土への理解と愛着の醸成を図るとともに、地域人材や施設を有効活用して、持続可能で多様な活動機会を確保します。また、職業観・勤労観等の育成を図るとともに、社会の仕組みに関する理解を深めるため、将来を見据えたキャリア教育を推進します。そのため、地域住民や関係機関との連携を進め、地域とともにある学校づくりを推進します。</p>
小分類	<p>1(2)⑦a 地域・ふるさと・十日町らしさ</p>
	<p>199 地元の産業を知る職業教育 200 地域との関わりの中で育む ● 201 5教科の勉強を外で学ぶ仕組み(課外授業) 202 幅広い総合的教育 203 地域との繋がり 204 地域性のある授業 205 教師や地域の人との対話の機会が多い 206 日本および地域の伝統 207 居住地域の地域資源など旧市町村単位のふるさと教育 208 十日町の歴史や良いところを伝える 209 歴史や良いところなど地域のことを知る 210 十日町にしかないものを学ぶ 211 自然や四季など十日町でしか学べないこと 212 地域の人との交流 213 ふるさと教育 214 ふるさと学習 215 十日町の歴史を知る 216 十日町の文化や誇りを育む 217 地域との連携 218 交流 282 オール十日町でのキャリア教育 291 地域や日本の歴史教育</p>
小分類	<p>1(2)⑦b キャリア教育・社会で生きる力</p>
	<p>181 リーダーの育成 182 競える 190 多くの仲間と競い合う 278 将来に役立つマナーリテラシー 279 税の仕組みや社会を支える責任 280 起業家や様々な分野のプロなど関係人口の多い環境 283 社会に出て役に立つ 284 知識を詰め込むよりも体験重要視 285 稼ぐ・より働く</p>

286 自分たちの暮らしを支える仕事に興味を持てる
 319 ボランティア精神

小分類 1(2)㉞c
 部活動の地域展開

311 部活動
 312 スポーツを頑張りたい生徒への対応
 313 文化・スポーツ
 314 クラブ・部活動を選択できる

児童生徒アンケートより(設問9)

どの学年においても、「地域の方とともに楽しむイベントや企画を行うこと」の割合が高くなっています。また、地域の職業の様子や働く意義について学ぶことも重要視されており、コミュニティ・スクールや地域協働活動等により、地域文化の継承活動や活性化活動を行えるよう、学校と地域との深い関係の構築が重要であると考えます。

中分類 ㉞ 教職員体制と魅力ある学校環境
 教職員の専門性を生かした指導体制の整備を図り、生徒にとって魅力ある教育環境を整えることで、地域内外から選ばれる学校づくりを目指します。

小分類 1(2)㉞a
 教育環境・教職員体制・学校の魅力

239 先生の個性が生きる
 251 子どもたちが行きたいと思う
 257 スペシャリストによる授業
 269 5教科に先生を複数人配置できる規模
 274 先生が楽しい
 275 バランスの取れた教員の配置
 276 小中高一貫校
 321 教育移住で選ばれる
 322 独自性
 ● 323 オルタナティブ

児童生徒アンケートより(設問5)

中学生においては、「一斉学習指導」による学習体制を求める意見が一定数を占めていることから、学力向上に向けて、専門的な教員による指導体制の確保が重要であると考えられます。現在の学習指導要領において進められる「探究的な学び」、「対話的な学び」も一定割合のニーズがあることから、学習指導に係る専門的な知識と学び方の工夫が求められます。また、「やる気を高めてくれる友だちや先生のサポート」も求められていることから、将来の目標や夢の実現に向けて成長できるよう、多くの人との関わりの中で支え合える体制を構築できることが重要であると考えられる。

**魅力ある十日町市立中学校づくり方針(たたき台)への
「十日町”みんなの学校”プロジェクト」グループワーク・児童生徒アンケート意見の反映**

●については、現在の制度では実現不可であり、今後制度改変等があれば検討は可能

2	目指す教育の姿の実現に必要な教育環境の整備
(1)	<p>グループワーク テーマ: 目指す教育の姿の実現に必要な(新しい学校に必要な)学校施設・設備</p>
分類	内容
大分類 (方針案)	<p>(1)必要な教育体制 中学校の再編にあたり、子どもたちが安心して通い、楽しく学び、将来につながる力を身に付けられる学校を目指します。そのために、次のような教育環境を大切にしていきます。 まず、ICTや通信環境を整え、学校や自宅などでも学べる環境をつくります。これにより、大雪や災害などがあっても学びを続けることができ、ほかの地域や多様な人とつながる学習が可能になります。 また、不登校の生徒や特別な支援が必要な生徒を含め、すべての子どもが安心して過ごせる居場所のある学校をつくります。相談しやすい体制を整え、一人ひとりに合った関わりができる学校を目指します。 さらに、十日町の歴史や文化、自然、産業を学ぶ機会を大切に、体験を通してふるさとへの理解と誇りを育みます。地域の方々が関わりやすい、開かれた学校とし、学校が地域の交流の場となることを目指します。</p> <p>(2)必要な学校施設 校舎や設備については、空調や雪対策、防犯対策を充実させ、だれにとっても使いやすいバリアフリーの学校を目指します。また、教科ごとの教室や自由に使える学習スペースなど、さまざまな学び方に対応できる教室を検討します。 給食や食育にも力を入れ、地元の食材や食文化を学ぶ機会を充実させます。あわせて、運動や文化・芸術活動がしっかり行える環境を整え、心と体の健やかな成長を支えます。 通学については、公共交通を最大限活用し、スクールバスなどの活用を含めて、安全で通いやすい方法を確保します。冬の厳しい気候に配慮するため、宿泊にも対応できる環境を整え、通学の工夫も行います。 また、環境にやさしい学校づくりを進めるとともに、災害時には地域の避難所として役立つ学校を目指します。 これらの取り組みを通して、子どもたちが安心して学び、地域とともに成長できる中学校をつくっていきます。</p>
中分類	<p>① 学びを止めないICT・学習環境 ICTや通信環境を整備し、対面・オンラインを問わず柔軟に学べる環境を構築する必要があります。それにより、災害時や大雪時にも学びを継続でき、他地域や多様な人とつながる学習を可能となります。</p>
小分類	<p>2(1)①a ICT・デジタル学習環境／オンライン・遠隔授業</p>

- 2 ICT環境の充実
- 3 大雪で学校に来れないときなどリモート授業の設備
- 4 最先端で学べるリモートできる教室・通信環境
- 5 Zoomやオンライン授業などに対応する端末の配布
- 6 Zoomなど遠隔授業ができる装置
- 7 リモート授業ができるようなネットワーク環境
- 8 オンライン授業ができるアンテナやPCなど機材用具
- 9 リモート授業に対応できる設備
- 10 オンライン授業
- 11 各教室に大型モニター(テレビ)
- 12 最新鋭コンピュータ設備
- 13 黒板を写すカメラと配信システム
- 14 プロジェクター画像が撮影できる黒板
- 15 スクリーンやTV、オンラインなどIT支援機器
- 16 電子黒板やプロジェクター
- 17 充電スペース
- 18 市外など他の学校の子と通信・発受信できる教室
- 19 デジタル設備が充実している
- 20 全世界から先生や子どもたちの発表を集め運営する
- 21 リアル先生でなくセントラル先生による授業

中
分
類

② 一人ひとりの安心と多様性を支える学校

不登校や特別な支援を必要とする生徒を含め、すべての生徒が安心して過ごせる居場所を確保することが重要です。相談体制や個別配慮が行き届いた環境を整える必要があります。

小
分
類

2(1)②a

安心できる居場所・多様な学びへの配慮(不登校・特別支援含む)

- 41 自分の居場所を一人ひとりが見つけられるようなあたたかみのある学校
- 42 一人ひとりが安心して通え過ごせる環境
- 43 特別支援教室の充実
- 44 適応指導教室の充実
- 45 特別支援学級関係のスペース
- 46 防音や視線配慮
- 47 今もある、それぞれの子に合わせてくれる教室
- 48 学習環境が確保できる施設
- 49 だれでもクラス
- 50 どこでも学べる
- 51 不登校の子の居場所
- 52 不登校の子・不登校になりそうな子へ配慮が保障されている環境

- 53 スクールカウンセラーの常駐
- 54 相談員常駐の相談ルーム
- 55 SSW・SC
- 200 不登校生徒が気軽に参加できるよう教室内にサイドテーブルとしての長机

小分類

2(1)②b
フリースペース・共有空間・居心地のよい空間

- 142 交流ができるフリースペース
- 143 自由な活動や発想が生まれるための広い共有スペースやカフェテリアのような開放的空間
- 144 教室以外に誰でも過ごせるオープンスペース
- 145 学年に隔たりのない空間
- 146 リラックスできる空間
- 147 リラックスルームなど「静」と運動スペースなど「動」の空間
- 148 大きな窓や木を使った部屋など電子機器から離れる脱ICTスペース

児童生徒アンケートより(設問8)

学校環境の充実では、友人や学年を超えた児童生徒とのコミュニケーション等を深めるためのフリースペース・オープンスペースも求められており、設問1及び4にあるように友人関係を深めるためにも、これらのスペースの確保が重要であると考えます。

小分類

2(1)②c
ジェンダー・多様性への配慮

- 155 ジェンダーや多様性への配慮
- 156 成長と多様性を支える空間づくり
- 157 ジェンダー対応の体操着や制服
- 158 制服フリー
- 159 男女別のほかに男女共有トイレ
- 160 ジェンダーレスに対応したトイレや更衣室などプライベートの確保

小分類

2(1)②d
学習集中・高度学習・クールダウン

- 183 勉強に集中したい子が没頭できるような施設
- 184 飛び級が可能なクラス
- 185 クールダウンルーム
- 186 自習室

中分類	③ 郷土を学び、地域で育つ学び・地域とともにある開かれた学校 地域の歴史・文化・産業・自然を学ぶ環境を整え、体験的な学習を通じて郷土への理解と誇りを育むことが大切です。また、地域住民や支援者が関わりやすい学校とし、交流や協働が生まれるコミュニティの拠点として活用することが求められます。
小分類	2(1)③a 郷土学習・地域文化・産業・体験学習
	56 各地域の歴史・文化・伝統が展示される部屋 57 地域資料館 58 旧市町村の生活文化が体感できるスペース 59 地域の方と一緒に学べる環境 60 十日町市のジオラマや各地区の紹介VTR 61 それぞれの地域の郷土学習ルームやスペース 62 地域の人もOKの地域が学べる教室やコミュニティルーム 63 各地域行事が確認できる掲示板 64 地域を感じられる学校 65 十日町の産業を小さいときから継続して学習できる 66 田植え・稲刈り 67 体験・実践できる環境 68 地域で育てるとい土壤 178 学校の中に田んぼや畑 179 畑・田 180 森 181 生き物を観察できるビオトープ 182 自然のある場所
小分類	2(1)③a 地域連携・コミュニティ機能(地域に開かれた学校)
	22 地域のコミュニティなどいろいろな人と関われる場所があるといい 23 お年寄りが見守るなどコミュニティとなるようなスクール 24 地域の人が集える部屋 25 地域の人が自由に入出りできる棟・部屋 26 地域交流の場 27 学校を支援する人たちが常駐できる部屋

- 28 外部の人も参加できる環境
- 29 地域住民参加の動線の確保
- 30 地域コミュニティとしても活用できる
- 31 PTA・ボランティア・学習支援者ルーム
- 32 保育園児・高齢者・障がい者・地域と一緒に
- 33 ちいきルーム
- 34 対話ルーム
- 35 コミュニティルームの設置
- 36 畳部屋など和の空間
- 37 放課後も過ごしやすい施設
- 38 コミュニティセンター併設
- 39 公民館併設
- 40 公民館など複合的な

中分類

④ 快適・安全で誰にでもやさしい学校

空調や雪対策、防犯対策、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れるなど、快適で安全な学校環境を確保する必要があります。

小分類

2(1)④a

空調・快適性・雪対策

- 113 空調設備
- 114 空調設備
- 115 冷暖房完備
- 116 教室や体育館にエアコン
- 117 全教室・体育館のエアコン
- 118 体育館と全教室にエアコン
- 119 体育館冷暖房
- 120 全ての教室に十分なエアコンや暖房設備
- 121 空調や雪対策など快適な校舎
- 122 省エネエアコン
- 207 採光や壁床の色など明るい校舎
- 208 越後杉など地元材の活用
- 213 多目的トイレ
- 214 全ての階に洋式トイレ
- 219 電磁波に敏感な人のための電磁波対策
- 220 化学物質過敏症に配慮した除草剤に頼らないグラウンド環境
- 167 屋根付き駐車場

- 168 ピロティ駐車場
- 169 広い駐車スペース
- 170 広い駐車場
- 171 送迎専用駐車場
- 172 駐輪場

児童生徒アンケートより(設問8)

学校環境の充実では、多くが体育館への空調設備の導入を求めています。併せて、多くの部活動等が実施できる広い体育館の整備も求められています。

小
分
類

2(1)④b
防犯・安全・動線計画

- 149 セキュリティ対策がきちんとした学校
- 150 セキュリティが高い施設
- 151 セキュリティカードによる入退室管理
- 152 防犯カメラシステム
- 153 死角や裏がない施設
- 154 車と歩行者が別の出入り口
- 217 無料電話

小
分
類

2(1)④C
バリアフリー・ユニバーサルデザイン

- 187 バリアフリー
- 188 バリアフリー
- 189 ユニバーサルデザイン
- 190 ユニバーサルトイレ・だれでもトイレ
- 195 エレベーター
- 196 エレベーター
- 197 エレベーター

中分類	⑤ 柔軟で創造的な学習空間 教科教室型や可変性のある教室や特別室など、多様な学び方や活動に対応した空間を整備し、主体的・探究的な学習を推進する必要があります。
小分類	2(1)⑤a 教科教室型・柔軟な学習空間(可変・専門・個別)
	103 教科ごとに選択できる教室の設置 104 授業によって教室が変わるフリーアドレス制の教室 105 教科ごとの専門教室 106 分割・統合できる可変性の教室 107 フレキシブルに形を変えられる教室 108 円形など四角くない教室・ホール 109 個室化した教室 110 課題別進度別学習ルーム 111 調理・裁縫・書道などICTに頼らない実体験が充実できる教室 112 映画館みたいな教室
小分類	2(1)⑤b 机・イスなど教室内配慮
	198 机イス 199 木じゃないイス
小分類	2(1)⑤c 講堂・図書館・学習拠点
	209 講堂 210 講堂の併設 211 本が充実した図書館 212 地域住人も利用できる図書館
中分類	⑥ 食育・運動・文化を支える施設 給食施設やランチルームなどの整備により、食を通じた交流や地産地消・地域の食文化を学ぶ食育の充実を図ることが大切です。また、関係団体等と連携する中で、授業や部活動等のカリキュラムに応じた運動施設や文化・芸術活動の場を充実させ、心身ともに健やかな成長を支える環境づくりは求められます。

小分類	2(1)⑥a 給食・食育・ランチルーム
	<ul style="list-style-type: none"> 69 ランチルームの設置 70 ランチルーム 71 全校生徒が集まって給食を食べるランチルーム 72 食堂 73 給食室があるといい 74 給食室 75 温かいご飯を出せる給食室 76 給食センターを併設しあたたかいご飯 77 自校給食 78 地産地消できる給食設備 79 食育を体験できる場 80 地域伝統料理・食材を学ぶ
小分類	2(1)⑥b 体育館・屋内運動施設・グラウンド
	<ul style="list-style-type: none"> 81 多様なスポーツに対応できるグラウンド 82 野球ができるグラウンド 83 水はけ良く裸足でも大丈夫な広いグラウンド 84 グラウンドの芝生化 85 グラウンド照明 86 グラウンドやテニスコートのナイター照明 87 屋外練習場 88 野球・サッカー・陸上など個別の施設 89 400mトラック 90 テニスコートなど部活動を行うための設備の充実 91 学校の近くで体育やスポーツに使えるグラウンド外のもの 92 ウィンタースポーツが充実した施設 93 バasketボールやバレーボールが2面取れる体育館 94 様々なスポーツに取り組める体育館や用具 95 空調付き体育館2つ 96 体育館2つ 97 柔道室など室内練習場 98 屋内練習場の充実 99 全天候型の室内運動場 100 災害時にも活用できる天候に左右されない運動場

101 トレーニング室

102 部活に入っていない子どものびのびと身体を動かせる環境

児童生徒アンケートより(設問8)

学校環境の充実では、多くが体育館への空調設備の導入を求めています。併せて、多くの部活動等が実施できる広い体育館の整備も求められています。

小
分
類

2(1)⑥c
プール

- 161 屋内プールがある
- 162 屋内プール
- 163 屋内プール
- 164 温水プール
- 165 屋根付き屋外プール
- 166 地域の人が利用できるプール

小
分
類

2(1)⑥d
文化・芸術活動施設

- 173 ステージになる大階段
- 174 本格的な楽器など芸術活動が充実できる機材
- 175 市民ギャラリー
- 176 コンサートホール付き音楽室
- 177 文化・芸術・スポーツが充実した施設

小分類	2(1)⑥e 更衣室・シャワー等の付帯施設
	191 大人数が同時に使える更衣室 192 シャワー室 193 シャワールーム 194 乾燥室
中分類	⑦ 通学の安全と利便性の確保 公共交通の利用やスクールバス等、安全で確実な生徒の通学手段を確保する必要があります。また、寄宿舍や民間宿泊施設の借り上げなど、冬期に配慮した対応も必要になります。
小分類	2(1)⑦a 通学手段・公共交通・スクールバス、宿泊機能等
	123 スクールバス等の交通手段 124 スクールバスの配置 125 登校下校時の送迎車両の充実とIC化 126 通学バスの台数 127 複数台のスクールバスと運転手 128 校外学習が機動的でき通学にも使える専門車両 129 自校用スクールバス車両 130 バスロータリー 131 学校の玄関前にスクールバスの路線別バス停 132 スクールバス待合室 215 宿泊設備の用意 216 寄宿舍

中分類	⑧ 環境配慮と防災拠点としての機能 効率的な再生可能エネルギーの活用や省エネ化を進めるとともに、災害時には避難所として機能する学校とする。
小分類	2(1)⑧a 環境配慮・再生可能エネルギー・雪エネルギー
	133 ソーラーパネルなど環境に配慮した施設 134 ソーラーパネル 135 太陽光・雪・地熱・水力など自家発電設備 136 小水力発電や太陽光発電などエコに配慮 137 自家発電 138 雪を活用した 139 雪を利用した冷房設備 140 雪冷房など雪の利用 141 バイオマスを活用した冷暖房
小分類	2(1)⑧b 防災・避難所機能
	201 避難所を想定した学校施設 202 避難所としても活用できる 203 避難所備品の管理室

魅力ある十日町市立中学校づくり方針(たたき台)への
「十日町”みんなの学校”プロジェクト」グループワーク・児童生徒アンケート意見の反映

●については、現在の制度では実現不可であり、今後制度改変等があれば検討は可能

3	地域・社会との連携・協働
(1)	グループワーク テーマ:地域や社会との連携・協働体制のあり方
分類	内容
大分類 (方針案)	<p>(1)コミュニティ・スクールの推進 十日町市では、中学校の再編にあたり、学校だけで子どもを育てるのではなく、地域や社会と力を合わせてコミュニティ・スクールの推進することで、子どもたちの成長を支える学校を目指しています。 まず、地域の企業や働く人と連携し、出前授業や職場体験などを通して、働くことの意味や十日町の産業の魅力を学びます。将来の仕事や進路を考えるきっかけとするとともに、ふるさとへの関心を高めていきます。 また、地域の大人や高齢者、専門家、学校の卒業生など、さまざまな人を学校に迎え、教科の学習だけでは学べない経験や考え方に触れる機会をつくれます。地域の方の人生経験や思いから、夢や生き方、人との関わり方を学びます。 さらに、地域の歴史や文化、伝統行事、祭り、芸術などに触れる学びを大切に、ふるさとへの誇りや愛着を育てます。農業体験や自然体験、雪国ならではの暮らしを学ぶ活動など、十日町の特徴を生かした体験的な学習を進めます。</p> <p>(2)地域活動と交流の場づくり 地域におけるボランティア活動や、イベントの運営などに生徒が参加することで、地域の一員としての自覚を育みます。学校と地域が一緒に行事や活動をつくり上げる関係を深めていきます。 こうした取組を支えるため、学校と地域をつなぐ仕組みを整え、地域全体で子どもを見守り、育てる体制をつくれます。公民館や公共施設なども活用し、学校の内外に学びや交流の場を広げます。 また、放課後や休日にも、子どもたちが安心して過ごせる居場所を地域と協力してつくり、防犯や見守り体制を整えます。専門家や関係機関とも連携し、心や生活の面でも子ども一人ひとりを支えます。 スポーツや文化・芸術活動についても、地域の団体や施設と連携し、多様な体験ができる環境を整えます。あわせて、保護者や保育園・小学校とも連携し、成長の節目を大切にしたい切れ目のない支援を行います。 このように、十日町市立中学校は、地域とともに学び、支え合いながら、子どもたちの未来を育てる学校を目指していきます。</p>

中分類	① 地域産業・企業と連携したキャリア教育の推進 地域の企業や職業人、専門家、OB・OGなど多様な地域人材と連携し、体験的な学びや企業との協働を通して、働くことの意義や地域の魅力を学び、将来の進路選択や地域への関心を高めるキャリア教育を推進します。
小分類	3(1)①a 産業・企業・仕事とつながる学び(キャリア教育・職業教育)
	<ol style="list-style-type: none"> 1 企業と協力してキャリア教育を行う 2 地域の企業からの業界説明・企業紹介を通じたキャリア教育 3 地域の職業人による出前授業の実施 4 地元企業との交流 5 地域ならではの職業教育(デュアルシステム) 6 アントレプレナーシップ教育の充実 7 まちの産業発見塾の継続 8 産業界からのアプローチ 9 ITなど地元企業とのコラボ事業 10 旧市町村単位の暮らしや仕事のプロと連携した社会教育 11 オンラインも活用しつつ世界とつながる地域産業と連携した社会教育 12 農業や農家との関わり 13 生産者さんとの連携 47 義務教育後の進路や就職にOBやOGからも関わってほしい 71 探求的な学びで地域のことや課題を学ぶ 72 学年ごとに文化・伝統・仕事などを学ぶ 78 地元に戻ってくる子や地元に関わり続ける子を育てる 109 高校や高校生とのつながり 134 都市と里との交流教育内地留学(デュアルスクール) ● 135 1年間内地留学可能な学区オープン制度
小分類	3(1)①b 地域人材を活かした授業・学習支援
	<ol style="list-style-type: none"> 15 本物志向 16 学校の教科のカリキュラムで教えきれないものを住民を教えられると良い 17 人生の目標・夢のつくり方を教える 18 友だち同士のコミュニケーションのコツ 36 地域人材 37 各地域の特色を共有するために歴史を知る人達から伝えてもらう 38 地域の方に講師をしていただく授業 39 地域の歴史を地域の方からお話を聞く 40 地域の人々を講師に

- 41 地域学習で地域の方から学ぶ
- 42 市民が講師となり継続的な授業を行う
- 43 地域の方が先生に
- 45 地域人材や地域ボランティアの活用
- 46 読み聞かせや校外学習など地域の方の学習ボランティア
- 80 特異なことを持つ地域の方と関わる
- 81 年代が違う人との関わり
- 88 地域の方から学べるような小学校区のお年寄りとの対話型バス待ち

中分類

② 地域文化・歴史・伝統の体験と継承

地域の歴史・文化・伝統、農業や自然、暮らしに根ざした体験活動や地域行事への参画を通して、ふるさとへの誇りと愛着を育むとともに、地域の一員としての自覚や社会性、生きる力を養います。
地域との活動の充実に向け、学校と地域が協力し合える関係づくりを進めます。

小分類

3(1)②a

地域文化・歴史・伝統の体験と継承

- 14 きもの
- 20 職場体験施設
- 44 伝統技術の継承の場になる
- 48 地域の施設に校外学習として出かけていく
- 49 学年ごとに旧市町村に遠足や社会見学に出かけてほしい
- 50 歴史・文化・伝統・人材・産業が色々体験できる
- 51 地域文化の体験・継承
- 55 地域の方との奉仕活動ができる場
- 56 クリーン作戦実施
- 57 生徒による地域ボランティア活動
- 59 地域行事
- 60 各地域の伝統や歴史などが学べる行事への参加
- 61 地域行事や祭りへの参加
- 62 生徒の地域ごとの行事への参加
- 63 地域行事への参加
- 64 地域の伝統行事への参加・継承
- 65 地域ごとの伝統行事への参加
- 66 各地域行事の掲示板の設置
- 67 学校で地域ごとの行事の発表
- 68 地域住民とともにイベントを開催

- 69 ふるさと愛を高める
- 70 出身地域の文化を学び合い発信する双方向カリキュラム
- 73 ふるさと十日町を愛する子を育てるためにふるさと学習の充実
- 74 地域ごとのテーマを決めて学習
- 75 地域のことを知る環境作り
- 76 市全体の地域資料
- 77 大地の芸術祭
- 87 地域×学校イベント
- 136 雪国での暮らし
- 139 十日町万博

小
分
類

3(1)②b
農業・自然・暮らし体験を通じた学び

- 12 農業や農家との関わり
- 52 田んぼや畑など地域の方との活動体験
- 53 米も作っちゃう
- 54 山遊びで自然の文化交流
- 58 地震時など電子レンジを使わない調理法
- 136 雪国での暮らし

小
分
類

3(1)②c
学校と地域をつなぐ組織・仕組み(CS・協働体制)

- 21 コミュニティスクールの推進
- 22 コミュニティスクールの認知度向上
- 23 地域学校協働本部の設立
- 24 学校支援地域本部に各地域の代表が入る
- 25 学校と地域をつなぐ窓口の常設
- 26 振興会窓口の設置
- 27 全コミュニティとの連携の強化
- 28 学び・理解・発信・継承ができる連携・協働
- 29 地域で子どもを育てる環境作り
- 30 地域ごとのボランティアやコーディネーター
- 31 地域コーディネーターの様々な役割を複数名で
- 32 校内に地域の拠点や基地的な部屋を設ける
- 33 コーディネーターやボランティアの校内の居場所
- 84 地域ごとの活動の設定

- 85 地域により縦割りのグループ
- 97 多くの人が関わる
- 111 学校と地域が同じ目標に向かう
- 112 学校と地域が一体となって協力する
- 113 地域が学校の応援団になる
- 114 地域の社会資源の活用
- 120 保護者連携
- 121 保護者が学び合う学習の場の設定
- 122 保護者の参加
- 123 各地域の小学校とどう連携をとるか
- 124 保育園・小学校とともに活動できる体制
- 132 人の組み方が大切

中分類

③ 公民館・公共施設・地域拠点との連携・世代間交流と多様な人との出会い

公民館や市民センター、公共施設、廃校施設等を活用し、学びと交流の場を学校内外に広げるとともに、学校施設を地域にも開放し、地域と共に使い、支え合う学校づくりを進める。
 こうした場を通じて、世代や立場の異なる人々との交流を促し、多様な価値観に触れながら、人とつながる力や共生意識を育成する。

小分類

3(1)③a

公民館・公共施設・地域拠点との連携

- 34 公共施設の利用
- 86 地域の茶飲み場
- 89 部活動やクラブ活動と公民館活動(サークル)との連携
- 90 公民館・市民センターと学校の連携
- 91 保育園・小学校・中学校・公民館一体の体制が当事者としての連携・協働を生む
- 92 公民館と協力し、事業を通して地域や文化を知る
- 93 公民館活動と一体的に
- 94 公民館集会所機能の連携体制
- 95 公民館事業との一体化
- 96 校内コーデや学校支援コーデに公民館がコラボ
- 108 プール、陸上競技場、野球場、体育館など市の体育施設
- 116 地域の方も利用できる図書館
- 117 地域の方も利用できるプール
- 118 十日町みんなの学校ギャラリー
- 119 十日町みんなの学校ホール
- 125 廃校利用はどの程度か
- 126 地域住民とのコミュニケーションの場所は公民館や残念ながら廃校となった校舎
- 140 旧市町村単位に最低1校はサテライト機能のあるコミュニティ施設があってほしい

小分類	3(1)③b 世代間交流・多様な人との関わり
	79 地域との世代間交流 80 特異なことを持つ地域の方と関わる 81 年代が違う人との関わり 82 学校に人が来る 83 学校外へ生徒が出る 88 地域の方から学べるような小学校区のお年寄りとの対話型バス待ち 110 色んな場合でのボランティア 115 高齢化をキーワードとした学校と地域の連携
中分類	④ 放課後の居場所づくりと安全・安心の確保 放課後や休日における子どもの居場所づくりを地域と連携して進めるとともに、見守りや防犯体制を整え、安全で安心して過ごせる環境を確保する。
小分類	3(1)④a 放課後・居場所・見守り・安全
	98 安全性の確保 99 声の掛け合いや助け合いなど防犯対策 100 放課後の子どもの居場所 101 放課後の居場所 104 企業等が見守る仕組み
中分類	⑤ スポーツ・文化芸術による地域連携 地域のスポーツ団体、文化芸術活動、公共スポーツ施設等と連携し、多様な体験の機会を確保する。
小分類	3(1)⑤a スポーツ・文化芸術を通じた連携
	19 クラブ活動に市民サークル・企業・市役所各課がワークショップ 105 スポーツ 106 スポーツ特化 107 スポーツ・文化芸術経験者からの協力

中分類	⑥ 専門職・外部機関と連携した支援体制 スクールカウンセラーやスクールロイヤーなど専門職と連携し、子ども一人一人の心身や生活を支える体制を整える。
小分類	3(1)⑥a 心理・法・専門職による支援体制
	102 スクールカウンセラー 103 スクールロイヤー
中分類	⑦ その他
小分類	3(1)⑦a 学校・通学の在り方・空間・構造に関する提案
	35 大きな家 131 バス・バス運転手 133 大学のようなキャンパス型 134 都市と里との交流教育内地留学(デュアルスクール) ● 135 1年間内地留学可能な学区オープン制度
小分類	3(1)⑦b 方向性・懸念・整理意見など
	127 地域に根付きすぎて外に出れない 128 地域の”自分”が強すぎて決められない 129 各種団体の発信力をサポートする 130 各種団体を整備して再編を図る 137 中学3年間で詰め込み過ぎではないか 138 各地域ごとの連携は学校とは切り離す

**魅力ある十日町市立中学校づくり方針(たたき台)への
「十日町”みんなの学校”プロジェクト」グループワーク・児童生徒アンケート意見の反映**

●については、現在の制度では実現不可であり、今後制度改変等があれば検討は可能

3	通学方法
(2)	グループワーク テーマ:通学条件・方法
分類	内容
大分類 (方針案)	<p>十日町市立中学校の再編にあたっては、すべての生徒が安心して通学し、学びに集中できるよう、安全性・利便性・持続可能性に配慮した通学環境を整備することを重要な柱とします。</p> <p>通学手段については、路線バスや鉄道などの公共交通を積極的に活用し、高校生や地域住民と共用できる、持続可能な通学体制の構築を目指します。一方、公共交通のみでは対応が困難な地域については、スクールバスを基本とした通学手段を確保し、駅や中継地点との接続など、地域の実情に応じた柔軟な運行を行います。</p> <p>通学時間については、「概ね45分以内(夏期)」を目安とし、特に遠距離や山間地から通学する生徒の負担軽減に配慮します。あわせて、冬季や豪雪期においても安全な通学を確保するため、待合所や登校時間の調整、宿泊施設の活用など、必要な対応を検討します。</p> <p>また、自転車や徒歩による通学についても位置づけを明確にし、通学路の安全点検や交通安全指導を継続的にを行います。</p> <p>学校の立地については、駅や交通拠点との関係を考慮し、通学のしやすさに配慮した配置を検討します。さらに、ICTを活用し、通学時の安全管理や通学・待ち時間を生かした学びの工夫、災害時等におけるオンライン対応を進めます。</p> <p>これらの取組を進めるにあたっては、交通事業者や地域団体、民間事業者等と連携し、地域全体で支える持続可能な通学体制の構築を図ります。</p>
中分類	<p>① 公共交通の活用 路線バスや鉄道を積極的に活用したうえで、公共交通だけでは対応できない地域では、スクールバスを基本とした通学手段を確保し、駅や中継地点と接続する効率的な運行体制を構築します。</p>
小分類	<p>3(2)①a 公共交通(路線バス・鉄道)を活用した通学</p>
	<p>141 バスや鉄道など公共交通機関との連携 142 公共交通の充実 143 路線バスや列車の利用 144 基本は電車・バス 145 高校生と同じでよい 146 路線バスの活用 147 路線バスが利用できる 148 路線バス</p>

- 149 最寄りのバス停からバス通学
- 150 鉄道が利用できる
- 151 電車
- 152 飯山線・北越急行の鉄道利用
- 153 ほくほく線と飯山線の維持もしたい
- 155 コミュニティバスを活用
- 156 地域の人でも高校生も皆が利用できるバス
- 157 地域の人でも利用できるスクールバス
- 159 路線バス・鉄道無料
- 160 学割など市の補助
- 161 地域住民も安く乗れる
- 187 スクールバス、路線バス、鉄道、自転車、徒歩、タクシーを整備して不足なし
- 241 金沢市の路線バスを見習う

小
分
類

3(2)①b
スクールバスの整備・運行・機能充実

- 163 スクールバス
- 164 バス通学must
- 165 スクールバスでしっかりとした送迎
- 166 スクールバスの運行
- 167 スクールバス使用
- 168 スクールバスの確保
- 169 各地域にマイクロバスやハイエースを配置
- 170 ワゴンタイプ車両のスクールバス
- 171 モニター付きスクールバス
- 172 GPS機能付きスクールバスの利用
- 173 スマホで予約
- 175 スクールバスはなるべくピストンしない台数で
- 184 一部区間スクールバスが必要
- 210 山間地が多いが冬季を考えてスクールバスを運行し、しっかり送迎してほしい

小
分
類

3(2)①c
公共交通＋スクールバス等の組み合わせ・乗り継ぎ

- 174 バス停や駅が徒歩20分以内でなければスクールバス
- 176 学校の立地にもよるがスクールバス、列車、自転車、徒歩
- 177 なるべく通学時間短縮できるように電車＋バスなど
- 178 スクールバスに路線バスの活用を
- 179 スクールバスで駅へ、駅から列車

	<p>180 中心地の場合、スクールバス&電車 181 遠い場合は公共交通+スクールバス 182 駅からのバス運行 183 駅までスクールバスで、電車を活用 185 居住地～中継地～学校の乗り換え通学 186 帰りバスの選択制</p>
小分類	<p>3(2)①d バス停・駅・待合環境の整備</p>
	<p>188 待ちづらくならないようにバス停を整備する 189 学校だけでなく停留所も雨風から守れるようなバス停 190 乗車場所を10分程度に設定 191 小中学区をポイントにバス待ちまで歩く 192 バスや鉄道の待ち時間に過ごせる施設 193 旧市町村単位のバス待合所が必要かも 194 学校や地域に待合所 239 位置情報を把握できる交通管理が必要 266 送迎用ターミナル</p>
中分類	<p>② 地域・民間との連携 交通事業者や地域団体と連携し、持続可能な通学体制を構築します。</p>
小分類	<p>3(2)②a 運転手・人材確保／運営体制</p>
	<p>214 バス等の運転人材の確保 215 運転手の確保 216 バス運転手など地域NPOからの協力 217 地域社会との連携 218 スクールバスの運営は外部へ 219 スクールバスこれ以上は厳しい！</p>
小分類	<p>3(2)②b タクシー・ライドシェア・代替交通</p>
	<p>154 バス会社やタクシー会社との協力体制 158 地元企業タクシーを活用</p>

- 236 保護者による代行業務
- 237 保護者送迎の許可

小分類	3(2)②C 新たな交通手段・将来技術
	<ul style="list-style-type: none"> 235 ライドシェアによるタクシーサービスを利用した通学 267 ヘリポート 268 無人バス 269 旧学校をまわる1日巡回バス 238 旅客と貨物が一緒に乗るスクールバスへの貨客混載 239 位置情報を把握できる交通管理が必要
中分類	③ 通学時間への配慮 通学時間は「概ね45分以内(夏期)」を目安とし、特に遠距離・山間地、冬期間の生徒の負担軽減を図ります。
小分類	3(2)③a 通学時間・負担軽減(時間・快適性)
	<ul style="list-style-type: none"> 177 なるべく通学時間短縮できるように電車+バスなど 196 通学時間「概ね1時間以内」が目安 197 通学時間1時間 198 バス通学時間は45分以内 199 基本40分以内 200 時間は30分～40分まで 201 ストレスがない通学時間が良い 255 学校から遠い生徒が苦にならない利便性 256 山間地生徒の負担軽減 264 荷物を減らす 265 帰宅時刻や部活動終了時刻など教育活動の工夫
小分類	3(2)③b 待ち時間・通学時間の有効活用(交流・学習)
	<ul style="list-style-type: none"> 260 バスの中ではタブレットで地域学習 261 スクールバス等の通学時間を受験での活用方法 262 コミュニティ小中スクールとなるようなバス待ち時間を活用してお年寄りに協力してもらい対話型時間に 263 待ち時間を対話お年寄りに協力

中分類	④ 自転車・徒歩通学の安全確保 自転車による通学も検討するとともに、徒歩も含めた通学路の安全点検や交通安全指導を行います。
小分類	3(2)④a 自転車通学
	220 自転車 221 安全な自転車通学 222 4km～6km程度は自転車の活用 223 道路状況の安全確認や定期的な講習を行い自転車での通学 224 通常は自転車、降雪時期はバスなど
小分類	3(2)④b 通学路・道路・安全対策(熊対策含む)
	162 熊対策でバスや電車 240 部活時の連絡ツールの許可 247 徒歩圏内の地域の危険マップ 248 通学路 249 道路や歩道の整備・延長 250 クマ対策 258 安全な徒歩通学 259 なるべく歩くも取り入れられるような通学
中分類	⑤ 冬季・豪雪期の安全対策 冬季でも安全に通学できるよう、スクールバスの安定運行や登校時間の調整、宿泊施設等の活用を検討します。
小分類	3(2)⑤a 冬季・豪雪期の通学対策
	202 冬季の宿泊施設 203 厳冬期寄宿舍 204 寄宿舍・下宿 205 宿舍 206 冬季下宿

- 207 寄宿舍
- 208 冬季間の工夫
- 209 冬季でも安全な通学や運行体制
- 210 山間地が多いが冬季を考えてスクールバスを運行し、しっかり送迎してほしい
- 211 冬季間の安全運行の確保
- 212 冬季の通学ルート細分化
- 213 冬季の登校時間を遅くする
- 242 大雪時の通学対応

中分類	⑥ ICTの活用 通学の安全管理や、通学・待ち時間を生かした学び、災害時のオンライン対応を進めます。
小分類	3(2)⑥a ICT活用・遠隔・通学時間の教育活用
	243 ICTの活用 244 リアル必須授業とオンライン可能授業の見極めを 245 災害発生しやすいときはリモート可 246 分散型学習を地域産業の中心にICTをうまく使いコーディネートを大切に
中分類	⑦ 学校立地と通学利便性 駅や交通拠点との関係を考慮し、通学しやすい学校配置を検討します。
小分類	3(2)⑦a 学校配置・立地条件への意見
	225 学校の立地によって交通手段も変わってくるのでは 226 電車を利用しやすい学校の位置 227 電車通学を活用できるよう駅近くに学校を 228 駅近くに学校がある 229 保護者みると高校と近い学校の配置
小分類	3(2)⑦b サテライト校・分散登校・代替拠点
	230 廃校になる校舎をサテライト校として避難的に登校して使えるようにする 231 旧市町村単位の1校はサテライト施設の配置を

- 232 毎日通学×なら数日通学数日サテライト
- 233 冬季サテライト
- 234 厳冬期はサテライトの各小学校に教師が出向く
- 270 大規模校化にならないように
- 271 やはり2～3校に
- 272 通学特区であり雪里留学実績あるまつのやま学園の存続を

小
分
類

3(2)⑦c
就学区域の自由化・学校選択

- 251 行きたい学校に行けるように学区をなくす
- 252 市内2～3校ならどこに就学しても良い
- 253 大規模校・小規模校を自由に選べるように
- 254 条件はフリー
- 257 保護者の送迎を前提としない